「正しく恐れる」ことの大切さ

一月のことなので少し時機を失した感がありますが、「星を語りて」という映画が城南市民センターで上映されました。この映画は１０年ほど前のこと、東北地方を襲った未曽有の大災害時に障がいのある方がどんな過酷な状況に置かれ、課題をどうやって乗り越えたかを後世に教えてくれる映画になりました。個人情報保護の壁をどうやって支援者の方々が乗り越えたか、大変興味深いものがこの映画には含まれていました。この映画は当会とさざなみ福祉会の共催によるもので、当日は３００人ほどの方に来場いただき、主催者の一人として感謝の言葉を申し上げます。

さて、今日（３月６日付）某紙の社説欄に標記の文字が躍っていました。少しずつ、少しずつ春の足音が近づいてきましたが、日本のみならず世界中が新型コロナウイルスの恐怖に凍えています。ドラッグストアやコンビニの店頭からティッシュペーパーが無くなる事態も起きました。一部店舗では、冷凍食品やコメなども品薄状態になっているとか。こうなってしまうと、政府の「在庫は十分にある。」という声明も空虚に響きます。「何を信じて良いか分からない。」そういう不安が新たな不安と恐怖の連鎖を引き起こし、果ては差別感情を誘発します。デマに惑わされることなく混乱の輪を広げないよう冷静で沈着な行動を取りたいものです。

一方、自然災害への備えも必要です。先日、あるテレビ番組でオーストラリアで起きた大規模な森林火災の様子が取り上げられていました。私たちの予測を超えて地球温暖化が進み、これから大災害が頻発する怖れがあります。自分の安全も大事ですが、高齢者や子どもたち、子育て世代の方、様々な障がいを有しておられる方が私たちの周りにおられます。災害弱者といわれる方々の安全・安心を考えて行動すること。福祉の職場にある者としてそのような矜持をもって日常の業務に当たりたいと思います。

社会福祉法人葦の家福祉会
理事長　　福山　良弘

令和２年度法人事業方針

法人では、３カ年の中期事業計画を策定中です。その骨子は次の通りです。「法人理念の継承と経営基盤、組織づくり」、「地域生活支援事業の体制づくりと安定化」、「日中活動の基盤整備」、「児童支援事業の準備」、「ワクワク感と夢をもって交流しあえる地域貢献事業作り」。今年度は、新しい中期計画を踏まえた事業計画を推進し、未来に向けた第一歩を踏み出します。

【今年度の事業方針】

第４次中期事業計画の着実なスタート、事業推進体制と職員の労働環境の整備、職員が夢を持てる育成体制作りを掲げ、以下の項目が重点目標です。

1．グループホーム、生活支援事業の連携、効率的な事業推進体制作り。
2．次世代の職員も参画した事業推進体制、組織の整備。
3．人材の確保、定着、育成体制作り。
4．日中活動の基盤整備とメニューの充実。
5．地域における防災の連携体制作りと地域貢献活動の取り組み。
6．支援の充実を求め、福岡市、国の障がい福祉計画に反映させる活動。

（法人本部長：友廣）

令和２年度 法人内の各事業所がめざすこと

【 葦の家 】

多様なニーズに応じた働く環境を提供し、福祉の街づくりに寄与できる体制づくりをめざすとともに、家族支援を強化していきます。仲間の高齢化による通院等の付き添いなどの対応が増加するものと思われます。グループホームやショートステイ、ホームヘルプ、相談センターとの連携を図り、「障がいがあっても地域の中でふつうの暮らし」の実現をめざしていきます。

【 えーる油山 】

障がい者が地域の中でふつうの暮らしをするための「地域で働く環境づくり」への働きかけと、高工賃への取り組みを推進します。青年期から高齢期までのライフステージを通した障がい者の活動の場の提供を行う施設をめざすとともに、仲間の健康づくりに取り組みます。また、アート活動や下請け作業、農作業、その他作業活動の充実を目指した活動を行います。

【 若久・屋形原特別支援学校放課後等支援 】

学校という慣れた環境でないと放課後を過ごせない児童生徒のため、安心・安全な支援体制をつくり、その実現に向けて職員の研修体制の充実を図っていきます。放課後等デイサービスとの違いを内外にアピールし、将来の児童支援事業の展開につながるような活動を行っていきます。

【 ヘルパーステーション ほっとほっと 】

サービス提供、組織体制を強化し、収益性の確保に努めます。グループホーム、ショートステイ兼務による効率的なシフト調整・労務管理を行います。在宅のヘルパー支援の意義を再確認し、スタッフ、利用者ともに楽しくやりがいをもって支援を行えることをめざします。

【 ショートステイ 】

専従・兼務スタッフによる運営管理体制を敷き、ヘルパーステーションと連携したニーズ対応を強化していきます。収益性を意識したサービス提供により収支の向上に努めるとともに、スタッフの研修や適切な労務管理体制、安全管理体制の強化を図っていきます。

【 城南区障がい者基幹相談支援センター 】

昨年度に引き続き相談ケースの整理を行いながら特定相談支援への移管によりケース数を減らしていくとともに、明確なライン形成とチームづくりを行いながら地域体制整備を進めることが出来るような所内の仕組みの構築を図ります。また、スタッフのメンタルケアを含む労務課題に対して、労働環境の整備に努めていきます。

【 相談支援センター あしっぷ 】

報酬の問題が全国共通の運営上の大きな課題となっている中、計画的なケース調整や事務管理を行うとともに、基幹センターおよび法人内事業所との連携により継続した計画相談支援を行っていきます。

【 グループホーム すてっぷ・すまいるホーム 】

仲間たちの状態に合わせ、高齢化や健康面を配慮しながら利用できるサービスとの連係を図り、充実した生活を送れるようにしていきます。すてっぷ再開に向けた人材確保に努め、他事業所と連携し、効率の良いシフト作成や事務機能の確立をめざします。また、防災面ではホーム内での避難訓練や地域の防災訓練に積極的に参加するなど、非常時に対応できる体制づくりをめざします。

成人を祝う会

今年は葦の家、えーる油山から一名ずつ、二名の仲間が新成人となりました。地域の皆様や出身校の先生方にもお集まりいただき、暖かい雰囲気で行うことができました。

今年も南区長丘にあるパティスリーコイデ様からお祝いのお菓子をご寄附いただきました。ご協力いただいた関係者の皆さま、日々支えていただいている地域の皆さま、本当にありがとうございます。

法人実践研究発表会を中止しました

昨年の発表会の様子

2月 23 日に予定していました実践研究発表会は同月 20 日に福岡市内で新型コロナウイルス感染者が確認されたことを受けて急遽中止とさせていただきました。職員もこの発表会に向けて準備をすすめていたため、感染状況が収束してきたら、あらためて発表の機会を検討していきたいと思います。

2021 年度採用活動を始めています

3月の採用情報一斉公開に合わせ、当法人でも 2021 年卒業予定者向けの採用情報の公開を行っています。本来なら3月の中旬には説明会も開始し、支援現場の見学も始まっているところですが、新型コロナウイルスの影響を受け、3月中旬の説明会は中止し、開催日程を遅らせています（3/21 時点）。私たちも就活生の皆さんもこれからどう動いてよいのかわからなくなっている状況です。

採用活動は仲間たちの安心・安全な支援を保障していく上でも重要な活動です。今後、各地の感染の状況や、国・福岡市の公式見解などを参考にしながら採用活動を進めていきたいと思います。

主要人事のお知らせ

○管理者人事（令和２年４月１日付）

【ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ】 管理者：西郷俊介

【えーる油山】 管理者：佐々木篤

法人内各事業所からの報告

葦の家（生活介護）

平成から新元号「令和」になった昨年は新しい仲間３名を迎えて始まりました。学校とは違い、お仕事をして過ごす毎日にはじめは戸惑ったことと思います。先輩の背中を見て日々過ごすことで、今では葦の家の一員として仲間たちの輪にすっかり溶け込んでいます。作業や活動面では、アルミ缶回収やバザー販売、創作活動などに加え新たにプラスチックカップの梱包作業を始め、仲間たちも工賃アップに向けて頑張って取り組みました。

春から秋にかけて油山クリーン作戦や夏祭り、運動会などの地域活動・行事に仲間と職員で参加し、地域の皆さんに「頑張っているね」とお声掛けいただきました。

11 月には吉野ケ里歴史公園へバスハイクに行き、散策したり、昔の服を着て写真を撮ったり、土器などを見て過ごしたりと各班それぞれ楽しんで過ごしました。

１年を通していつも通り過ごすことができ、地域の方に見守られていることを実感し日々感謝しています。今年度もいろんなご縁をたいせつにして頑張っていきたいと思います。

（サービス管理責任者　岡村）

アルミ缶リサイクル作業

樋井川４丁目夏祭り

バスハイク

えーる油山（多機能型：就労継続 B 型+生活介護）

バレンタインデー

２月１３日にバレンタイン企画を行いました。グループホームすてっぷのキッチンをお借りし、チョコレートバーを作りました。マシュマロを包丁でカットしたり、ナッツや板チョコを砕いたりと女性陣が大奮闘！完成したものを冷蔵庫で固めている間に、今度はメッセージカード作り。一枚一枚に心を込めてメッセージを書きました。あげた仲間ももらった仲間も、ほっこりと心温まる企画となりました。　（支援員　渡邊）

受注作業

えーる油山での作業について紹介します。１つ目は、去年の６月より新しく始めたカップ作業です。皆で数え、袋入れ、袋止め作業して納品まで行っています。仲間には、見通しが分かりやすく目標を持ちやすい作業です。

２つ目は、ボトリング作業です。こちらの作業は、植物の栄養剤を計量して、スプレーボトルにシールを貼り、ロゴの入った紙を袋に入れています。今まで日 40 個だった生産量は現在 60 個まであがっています。どちらの作業ともモチベーションを持って取り組めています。これからも仲間が楽しく作業に取り組めていけたらと思います。　（支援員　辻）

特別支援学校放課後等支援事業（屋形原・若久）

どんぐり・たんぽぽルームでは、年に１度防災センターへ行き“防災”について学ぶ機会を設けています。暴風・地震・消火等の模擬体験を通し、災害の怖さや防災の大切さを学びました。

消火体験では、センターの方の説明をしっかりと聞き、大きな声で「火事だー！」と周りに知らせ、慎重に消火器を扱うことができました。緊張感もあったようですが、子どもたちにとって貴重な経験になったようです。体験終了後はヘリコプターの展示を見学しており、とても興味深そうにヘリコプターへ乗り込み、操縦を楽しむ子や消防士になりきる子もいました。

防災意識を持つきっかけになったようで、ルームに帰室後さっそく室内の消火器の置き場所をチェックしていた子どもたちです。

（放課後等支援副責任者：園山）

ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ

屋外活動で公園へ立ち寄る

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ホームヘルプサービスの利用に大きな変化が起きています。居宅介護、移動支援(行動援護)は、１対１で行う居室や街中でのサービスですが、全国的な感染拡大につれ、キャンセルが相次いでいます。入浴サービスや買物や外食など、障がいの重い人たちにとって必要な介護や数少ない社会参加場面が失われることは非常に残念です。サービス内容を所内で確認し、マスクの着用や消毒液の携行など、屋外活動ができるよう工夫する取り組みもしています。

日々刻々と変わる情報に注視しつつ、私たちの強みである利用者のニーズに寄り添うための創意工夫と実践にチャレンジしています。

（サービス提供責任者：臼井）

ショートステイの連携

通所施設利用者から、5 泊 6 日の緊急のショートステイの依頼を受けました。相談支援事業所の調整により、当事業所で 2 泊、障がい者地域生活・行動支援センターか～むで 2 泊、通所施設の単独型事業所で 1 泊と 3 事業所が連携して支援しました。ご本人の混乱が心配でしたが、福岡市の共同支援事業を活用しながら、連続して 3 事業所で過ごすことができました。

今後このように、地域の短期入所事業所が連携して支援にあたるケースが増えてくると思います。

（支援員：武田）

相談支援（基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

城南区障がい者基幹相談支援センターでは、こんな仕事をしています！

様々な相談への対応

障害者手帳や障害年金の申請、成年後見制度の申請、子育て中の障がいのある親御さんからの相談、病院から退院予定の方の地域生活支援など、幅広い相談に応じています。

地域のネットワークづくり

区内の障がい福祉サービス事業所に声かけをし、年に数回ネットワーク会議（通称：城南サポネット）を開催しています。事業所同士で顔の見える関係をつくり、地域の利用者さんの暮らしを協力して支えられるようにしています。今後は医療機関、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなど連携の幅を広げ、より暮らしやすい地域をつくっていきます。

また、地域との関わりもこれから広げていく予定です。現在は堤公民館で月 1 回行われる「つつみカフェ」の設営に携わっています。葦の家やえーる油山の仲間も利用する地域の居場所を当センターでも一緒に支えていきたいと思います。

相談支援センターあしっぷでは、地域に暮らす利用者さんへのサービス等利用計画（福祉サービスを利用するためのプラン）を作成しています。ご本人やご家族の生活の変化に合わせて、利用できるサービスや社会資源の紹介・相談に応じています。基幹相談支援センターとも連携し、ご本人に寄り添いながら生活全体の支援を考えていけるのがあしっぷの強みです。

これからも地域の障がいのある方をはじめ、住民のみなさんが暮らしやすい街にしていけるようがんばっていきます！

（相談支援専門員：重松）

グループホーム（すてっぷ・すまいるホーム）

すまいるホームの支援の１つには、健康管理に必要な通院支援があります。ホームには 10 名の仲間が入居しており、定期通院と突発的な発熱やケガ等による通院があります。

仲間たちは、自身の体調に関して訴えることができませんので、日々のバイタルチェックで異変がないか観察を行っています。通院はご家族で行う場合、職員のみで行う場合、職員がご家族に同行する場合があります。事前に通院日が決まっている場合、シフト調整を行って通院支援を行います。ホームの勤務体制及び当日の人員では対応できないときは、法人内の他の事業所に応援をもらい通院しています。

通院時の支援で難しいことは、初めて行く病院への引継ぎや開拓、通院した際に医師へ状態を正確に伝えること、ご本人の障がい特性や日常生活をイメージしての看病するポイントを質問する力などが挙げられます。また、通院後の医師からの指示をホームの職員へ間違いなく伝え、引き継いでいくことも大事な支援で、引き継ぎ力も求められます。

仲間たちの健康を維持していくには様々な課題があり、不安も大きいですが、すまいるホームの近くに仲間たちを診てくれる病院がいくつかあるので心強いです。ホームの職員では高齢化に伴う健康管理は限界があります。そのため医療とのつながりと連携を図っていくことは、『地域の中で暮らす』には、とても大切な支援だと思っています。

（サービス管理責任者：長野）

社会福祉法人 葦の家福祉会だより　令和２年４月号

発　行　日　令和２年４月１日
編集・発行　社会福祉法人 葦の家福祉会
〒814-0153　福岡市城南区樋井川４丁目１-１７
〈代表〉Tel 092-873-7481　Fax 092-834-3362
E-mail　asinoie@blue.ocn.ne.jp
URL　http://www.ashi.sakura.ne.jp